

# ステリクロン®Wエタノール液1%

(ノ左側面より続く)  
 3) 血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、十分注意すること。  
 4) 本剤はエタノールを含有するので、火気に注意すること。  
 ※5) 溶液の状態では長時間皮膚と接触させた場合に皮膚化学熱傷を起こしたとの報告があるので、注意すること。  
 5. その他の注意  
 クロルヘキシジングルコン酸塩製剤の投与により、ショック症状を起こした患者のうち、数例について、血清中にクロルヘキシジンに特異的なIgE抗体が検出されたとの報告がある。

### 【取扱上の注意】

- 【注意】  
 (1) 本剤の付着した白布を直接塩素酸塩で漂白すると、褐色のシミを生ずることがあるので、漂白剤としては、過炭酸ナトリウム等の酸素系の漂白剤が適当である。  
 (2) 開封時、容器の肩部又は底部をもち、液がとびださないように、キャップを開けること。

④登録商標

キャップ：PP    バックシン：PE, PP  
 ボトル：PE    ラベル：PE

目安  
 1%    開封日  
 年 月 日

## 外用殺菌消毒剤 ステリクロン®W エタノール液1%

アルコール類\*水溶性\*危険等級Ⅱ\*火気厳禁

STERICLON® W ETHANOL SOLUTION 1%    500mL

**CHG 1%**

健栄製薬株式会社  
 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号  
 電話番号 06(6231)5626

貯法：気密容器  
 遮光して、火気を避けて室温保存  
 注意：「取扱上の注意」の項参照

**引火性**

【組成・性状】  
 (組成) 100mL中  
 クロルヘキシジングルコン酸塩 1g含有 (1w/v%)。  
 添加物としてエタノールを含有する。  
 (性状)  
 エタノール (日局エタノール 83vol%) を含有する無色～微黄色透明の液である。  
 比重  $d_{20}^{20}$  : 0.862 ~ 0.872

# ステリクロン®Wエタノール液1%

※※2017年10月改訂 (第3版)  
 ※ 2016年6月改訂

【日本標準商品分類番号 872619】

承認番号	22800AMX00366
薬価収載	薬価基準未収載
販売開始	2016年6月
再評価結果	1992年6月

## ステリクロン®Wエタノール液1%

- ※※【禁忌 (次の患者及び部位には使用しないこと)】  
 (1) クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者  
 (2) 脳、脊髄、耳 (内耳、中耳、外耳) [聴神経及び中枢神経に対して直接使用した場合は、難聴、神経障害を来すことがある。]  
 ※※ (3) 膈、膀胱、口腔等の粘膜面 [クロルヘキシジン製剤の上記部位への使用により、ショック、アナフィラキシーの症状の発現が報告されている。]  
 (4) 損傷皮膚及び粘膜 [エタノールを含有するので、損傷皮膚及び粘膜への使用により、刺激作用を有する。]  
 (5) 眼

【効能・効果】  
 手指・皮膚の消毒  
 【用法・用量】  
 手指・皮膚の消毒には、洗浄後、1日数回適量を塗布する。

〈調剤包装単位用コード〉  
 011111101111

〈販売包装単位用コード〉  
 011111101111

# ステリクロン®Wエタノール液1%

- ※※【使用上の注意】  
 ※ (1) 慎重投与 (次の患者には慎重に使用すること)  
 (1) 薬物過敏症の既往歴のある患者  
 (2) 喘息等のアレルギー疾患の既往歴、家族歴のある患者  
 2. 重要な基本的注意  
 ※※ (1) ショック、アナフィラキシー等の反応を予測するため、使用に際してはクロルヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏体質の有無について十分な問診を行うこと。  
 (2) 本剤は希釈せず、原液のまま使用すること。  
 (3) 産婦人科用 (膈・外陰部の消毒等)、泌尿器科用 (膀胱・外性器の消毒等) には使用しないこと。  
 (4) 本剤が眼に入らないように注意すること。眼に入った場合は直ちに水でよく水洗すること。  
 (5) 広範囲または長期間使用する場合には、蒸気の吸入に注意すること。(エタノール蒸気に大量にまたは繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、頭痛等を起こすことがある。)  
 3. 副作用  
 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。  
 ※※ (1) 重大な副作用  
 ショック (頻度不明)、アナフィラキシー (頻度不明) : ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので観察を十分に行い、血圧低下、蕁麻疹、呼吸困難等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症注1)	発疹、発赤、蕁麻疹等
皮膚注2)	刺激症状

注1) このような症状があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、再使用しないこと。  
 注2) このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

4. 適用上の注意  
 (1) 投与経路：外用にのみ使用すること。  
 (2) 使用時：  
 1) 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、予備洗浄に用いた石けん分を十分に洗い落としてから使用すること。  
 2) 同一部位 (皮膚面) に反復使用した場合には、脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるので注意すること。  
 (右側面へ続くノ)



折り目